

過疎地域のメリットは？

過疎地域だけに発行が許される「過疎債」(市の借金)は、返済の70%が交付税で賄われる有利な制度で、市の財政を支える重要な財源ですが、国全体の発行計画の総額が減少しており、確保が厳しくなっています。さらに、現在の過疎後期計画が平成21年度に終了するため、その後の制度の存続について予断を許さない状況にあります。

※表③「過疎債発行額の推移」参照

市の借金の返済は？

これまで市が借り入れた借金の返済が増加しつつあり、平成15年度までの返済額で年間30億円台を推移しています。

平成16年度以降に借り入れた借金の返済を考慮すると、さらに大きな負担が加わることが予想されます。

※グラフ②「平成15年度までの借金の返済額〜普通会計」参照

市の貯金の状況は？

市が財源不足などに使うため積み立てている「財政調整基金」(市の貯金)が減少しており、仮に市の財政状況の悪化が続くと貯金が底をつ

く恐れがあります。
※グラフ③「財政調整基金残高の推移」参照

早期の財政基盤強化と明日の活力の創造

こうしたことから、行政改革による早期の財政基盤強化と明日の活力の創造が強く求められています。引き続き、全力をあげて行政改革に取り組んでいきます。



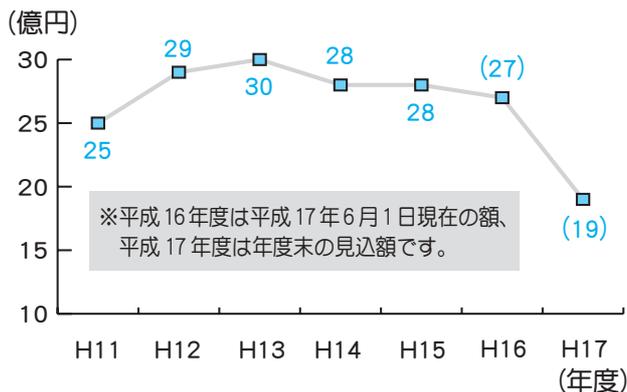
養父市理事 川崎浩二郎

市の財政を取り巻く環境は厳しいものがありますが、行政改革の取り組みも徐々に進みつつあります。平成16年度一般会計は黒字となつて、このうち4億円を財政調整基金に積み立てることができました。さらに取り組みを進めれば、必ず将来の発展につながる力を蓄えることができるものと期待しています。

■表③ 過疎債発行額の推移

区分	H 14年度	H 15年度	H 16年度	H 17年度
国全体の発行計画	3,250 億円	3,130 億円 <対前年度> ▲120 億円 (▲4%)	2,945 億円 <対前年度> ▲185 億円 (▲6%)	2,900 億円 <対前年度> ▲45 億円 (▲2%)
養父市の発行額	17.98 億円	21.71 億円 <対前年度> + 3.73 億円 (+ 21%)	25.66 億円 <対前年度> + 3.95 億円 (+ 18%)	13.86 億円 ※計画 <対前年度> ▲11.8 億円 (▲46%)

■グラフ③ 財政調整基金残高の推移



■グラフ② 平成15年度までの借金の返済額〜普通会計〜

